

イベントでは住民一人ひとりに 役割を持たせましょう

地域活動の際は、特定の人だけに期待するのではなく、地域の構成員として子供から高齢者まで男女の隔てなく役割を分担することで、地域への帰属意識を高めましょう。また、子供のコミュニケーション能力を訓練し、地域の活動に貢献する意味を教えてあげましょう。

そして、地域コミュニティを担う人づくりの場として、リーダー層だけでなく、多様な人材の育成と確保につなげましょう。



地域活動の現場では、役員や参加するメンバーの固定化や次代を担う若手の不在によりリーダーの高齢化が進むことによる制度疲労が見受けられます。過疎化が進む中山間地では町内会を維持することがそもそも困難であり、限界集落などと呼ばれることもあります。また町中であつても限界町内と呼んでもおかしくないほど高齢化が進む地域もあり、早急な対応が必要となります。

町内会費を払ってお終いではなく、幅広い世代や住民層の参加を促進して、できるだけ多くの住民の自主的な参加を得る必要があります。各人にそれぞれ役割と居場所を持ってもらうことでコミュニティをより身近に感じてもらいながら、帰属意識を高めましょう。

提言の背景となった事業

- ・ みんなで集おう！地域コミュニティ
～地域に広げようコミュニティのWA～

多世代交流を目的としたイベントで、参加していただいた方には少人数のグループに分かれていただき実施しました。

地域発見班では年長者が若い世代に昔の様子を教え、子供たちは街歩きを終えて気付いたことを発表、ふれあい班では高齢の方が地域のこれまでとこれからを話し合い発表、お料理班では参加者全員分の料理作成、運営班は事前の参加者募集から当日の設営撤去・反省会まで幅広くさまざまな方にご参加いただきましたが、みなさんが目的や役割を持って参加していただきました。